

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年3月1日

事業所名 Kids Labo123上本町

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		時間をずらして活動するようにしている。	時間帯が重なる場合にさらなる工夫が必要。
	2	職員の配置数は適切である	○		必要に応じて職員を増やして対応している。	職員一人一人の療育の質の向上を図る。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			事業所入口やトイレのバリアフリー化が課題。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		児童につけたい力などについて打合せや振り返りを行い、改善につなげている。	目標や改善策等について、職員間の共有を今後も図る。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価結果をもとに、保護者の意向を把握して改善につなげている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		HPで公開している。	公表についての周知を行う。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	相談支援員など外部の方の来所時に意見をうかがっている。	第三者評価については、今後要検討。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		教育訓練の活用。全体での運動療育の研修等を実施	計画的な研修の継続と充実を図る。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		アセスメントや保護者へのていねいな聞き取り、モニタリング用紙を生かして作成。	今後もよりていねいなアセスメントを行い、ニーズや課題の把握に努め、よりよい計画作成につなげる。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	独自に作成したチェックリストを活用。	標準化ツールについては、今後検討。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		主となる指導員をもとに検討。	立案できる職員を増やすことが課題。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		年齢や特性に応じて、工夫している。	マンネリにならないよう工夫していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		時間等に応じて配慮している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		ニーズや特性を考慮して作成。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日療育前に必ず行い、確認している	今後も継続する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終了後にできない場合は気付きを出し合ったり翌日確認したりする。	振り返りや記録の共有の時間の十分な確保が課題である。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日報にその日の支援や気づきなどを記録し、共有している。	支援の検証、改善につなげていく。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリングを行い、面談を取り入れている。	計画的に進める。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		ガイドラインの支援内容をもとに、具体的な支援内容を取り入れている。	5領域について取り入れていく。	

関係機関 や保護者との 連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		開催の際は、児童発達支援管理責任者が参加している。	必要に応じて、他の指導員の参加も進める。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		送迎の際や、保護者を通じて行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		薬など保護者との情報共有を行っている。	医療的ケアが必要になった場合、必要に応じて積極的に連携していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		保育所等訪問支援を活用している。	より積極的に連携していく必要がある。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	十分できていないが、保育所等訪問支援を活用している。	より積極的に連携していく必要がある。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		生野区社協の研修会、講演会等に参加。	計画的な研修への参加を進める。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		あまりできていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		毎回、必ず児発管が参加している。	不登校、ひきこもり支援連絡会にも参加。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日頃から電話や面談、ラインなどを使って情報交換や助言等を行っている。	今後も、ていねいな相談援助を行っていく。
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	ペア・トレ導入はできていないが、保護者からの相談に応じて助言・支援している。	ペア・トレなど、積極的に支援できるよう進めていく必要がある。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に丁寧な説明を心がけている。	今後も継続してていねいな説明を心がける。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要に応じて家庭連携支援や面談、電話やラインでの相談活動を行っている。	今後も積極的に進める。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		検討課題である。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談等にはいつでも応じ、ていねいな対応を心がけている。	保護者からの相談等については、職員間での迅速な報告・連絡をとおして、誠実に対応していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○	ラインやHPで発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		送迎時や、電話、ラインなどで情報伝達に心がけている。	今後も積極的に情報伝達をしていきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		保護者への周知を図ること。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	避難訓練を実施している。		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	虐待研修を実施し、虐待予防に努めている。	今後も継続すること。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		事例はないが、積極的な説明や記載に努める。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	虐待研修を実施し、虐待予防に努めている。	今後も継続すること。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	事例を記入し共有している。		